『心理学紀要』（明治学院大学）第 23 号　2013 年　3 - 31 頁

女性サイコロジストとしての私の歩み

井　上　孝　代（明治学院大学心理学部）

はじめに～最終講義にあたって～

2009 年 9 月に日本心理臨床学会第 28 回大会が明治学院大学で開催された折，私は実行委員長講演として「多文化カウンセリングとコミュニティのクロスロード：RESPECTFUL カウンセリング心理療法とマクロ・カウンセリングの考え方」と題してお話しする機会をいただいた。その機会は期せずして，自分が最初は実験系の心理学科での学びからスタートし，臨床心理学の分野，とりわけ多文化間のこころの問題に取り組むことになったのかを振り返り，あわせて自分の今後取り組むべき課題などを考える好機となった。2012 年の多文化間精神医学会の学会誌では，「私はなぜ多文化間の心の問題に取り組むことになったのか？」という特別企画が提案されたのを機に，先の講演内容を論文の形で寄稿させていただいた。

2013 年の最終講義にあたっては，「こころと文化」誌の拙文をふまえ，これまでの自分自身のサイコロジストとしての経験を振り返り，今後の課題や願いなどについて話させていただいた。タイトルにわざわざ“女性サイコロジストとしての”と少し気張った表記にさせていただいたのは，自分の歩みが時代的背景もあって，女性というジェンダー意識の上に，アメリカ心理学会（ＡＰＡ）で臨床心理教育モデルとして打ち出された Scientist-Practitioner Model を標榜して研究と臨床実践を両輪とするキャリア形成を願ってきたものであったためである。

内容的には，イスラエルの心理学者 Lieblich (1994) の「ライフストーリー研究」の手法に基本的にならい，生育史での一定の意味ある時期を区切り，その時期の「タイトルづけ」，「エピソード」，「重要な他者」，を考慮し，「願いや夢」に思いを馳せるという形で振り返りをおこなった。そういう意味では，最終講義とはいっても学術的というより，いわばライフストーリー的なものであることを最初に了解ねがって話させていただいた。

１．「こころを探る心理学」と「人を支える心理学」の学び，そして気づき

1-1　生誕地（ソウル）と生育地（福岡）

生まれたのは韓国ソウル市の南大門である。韓流ブームの到来以来，「私は韓国生まれです」というと最近ではむしろ羨ましいという表情をされることもあり，なんとも不思議な感慨を抱く。両親から繰り返し聞かされた当時のソウルでの生活や釜山からの引き揚げ船の様子が，子どもの想像の世界で外国（韓国）の文化とその背景にある歴史的事実への強い関心となり大きく広がった。ただ，それはなぜか子ども心にもロマンというような甘い香りがするものではなく，戦争，別離，差別といった少し哀しみ色に染まったイメージだった。

２歳からは，韓国とも近く歴史的・文化的風土の地，九州（福岡）で過ごした。福岡城周辺にある大濠公園側には，第二次大戦後の占領政策の一環である連合国総司令部（GHQ）の建物が大きく目立ち，連合軍に接収され朝鮮戦争

の前線出撃基地であった板付基地や米軍かまぼこ兵舎は1972年に返還されるまで，フェンスの向こうのアメリカとして様々な異国の匂いを醸していた。実際，軍服姿のアメリカ兵がガムやキャンディなどをシープから投げながら群がる子どもたちの前を走り去る様子，派手な洋服の女性と手を組み闊歩する姿など，子供の頃よく目にした光景が今も目を閉じれば何ともせつなく思い浮かぶ。

1-2　高校から大学へ

高校は1784年に開校された200余年の歴史を誇る福岡県立修猷館高等学校に進学した。アイザック・ニュートンの林檎の木の末裔が植わる修猷館高校は，校長を「館長」，校歌を「館歌」，校旗を「館旗」と呼び，ほぼ生徒の自治に委ねる自由な校風で知られていた。その意味では徹底した進学指導もないまま，大学進学にあたっては専攻の選択に大いに悩んだ。子どもの頃から銀河と遺跡の本が好きで，目前に見る壊れた遺跡食器で食事をしていた人々の様子を想像したり，遠い銀河系の果てをイメージしたりすること，そしてそれができる人間の脳の機能やこころの有り様にロマンを感じた。

結果，大学は九州大学文学部哲学科心理学専攻に進んだ。ここの心理学実験室は“心理学の父”と呼ばれる実験心理学の創始者ヴント（Wundt, W）のドイツの実験室をそのまま再現した歴史的に貴重な建物だった。そのヴントが実験心理学研究の最後の晩年20年を民族精神の研究に没頭し，10巻の「民族心理学」の成果を残したことを知り，心理学の学びと文化の関連の強さに印象づけられた。

この研究室では，当時，「恒常性」に関する実験が盛んで，幼児の発達検査・実験や禅の生理学的研究など実験心理学の分野を広く学んだ。自身でも脳波やピアジェの三ツ山課題などの研究をしていたが，興味はだんだん実験室の研究より臨床現場の方に向かっていった。その頃同じ九州大学の教育学部では精神分析，自律訓練法，臨床動作法，グループ･ダイナミクス，エンカウンター・グループなど心理学の応用分野の教育・実践が隆盛を誇っていた。そういう教育学部の講義に積極的に触れるにつれて，興味はますます臨床心理学の方に移っていった。

1-3　臨床修行

実験心理学講座に所属しながらも，学部３年生より県立病院の精神科病棟の実習に参加するようになった。当時はサイコドラマの導入期であり，病棟で実施されていたサイコドラマで補助自我として参加させていただいたことは大変勉強になった。大学院時代の５年間では，精神科病院でロールシャッハ・知能テストなどの心理アセスメントや作業療法などに携わった。また，催眠療法研究会・ロールシャッハ研究会・サイコドラマ研究会や病棟カンファレンスなどの多くの研鑽の機会を得た。そのようななかで，研究対象も聴覚障害児，知的障害児，精神障害者などの障害を抱える方たちの発達的問題とその心理支援に関するものに移行していった。すなわち，臨床修行を通して，「こころを探る心理学」の学びから「人を支える心理学」へ学問的関心もシフトしていったのである。

1-4　大学紛争・スティグマ・ジェンダー意識

福岡は全国でも同和地区の多いところである。大学院時代は大学紛争のまっ只中で，校内に突っ込んだ板付基地からの戦闘機をバリケードで取り囲み，一方では同和問題が激化した。この同和問題によって同じ日本人同士での差別意識が深く存在することを再認識した。また当時は研究者を目指す女性はまだ少ない時代で，自分自身の女性という性の社会的制約も知らされた。そんな時期，エリカ・ジョングの『飛ぶのが怖い』やヴァージニア・ウルフの『私だけの部屋』などのフェミニスティックな本とも出会った。障害者研究や同和問題，性差意識を体験した大学院生時代において，それまで文化イコール外国という認識から，文化の多様性とい

う，より広い意味での文化差という認識に深まった。

1-5　文化的アイデンティティの気づき

大学院修了後，1970年代初頭にシカゴで1年間生活した。今でこそ日本でも多いリサイクルショップに下着まで売っているのが珍しく品物を見ていると，ボランティア婦人たちが大きな袋一杯の品物を渡してくれた。それが“貧しい日本人”への同情からの恵みだと知ったとき，自分が日本では経験しなかった偏見や差別の対象となっていることを身をもって体験した。他にもいくつかの場面で受けた日本人としての被差別体験から，それまで意識していなかった自分の日本人としての文化的アイデンティティへの気づきを実感した。当時はインターネットなどなく，それまでの書物や映画などからの文化的情報とは異なるリアリティをもったアメリカ社会における人種の多様性や政治的・経済的・社会的構造の違い，宗教的意識・世界観の違いなど，大きなカルチャーショックを受けた。

このような教育的環境におけるさまざまな出会いを通して，「こころを探る心理学」と「人を支える心理学」の総合的な学びと文化的気づきを大事にしながら活動して行きたいと願うようになったのである。

2．コミュニティでの臨床実践

2-1　教育相談センターでのカウンセリング活動および公立高校でのコンサルテーション

東京に移り住んでからは地域で自分のキャリアを活かせる場として，教育相談センターでの相談業務を得ることができた。不登校児の問題が話題になり始めた頃で，箱庭療法やプレイセラピーを用いてのカウンセリングをおこなった。児童を対象におこなうカウンセリングにおいては，いかに非言語的アプローチが有効であるかが理解できた。また，事例検討を通して，家庭と学校と教育センターの情報の共有と連携の必要性が実感された。このことは不登校児のためのハートフルフレンド派遣事業（横浜市）のスーパーバイザーとして現在まで活動するなかでも強く実感することである。

また，公立高校では「心の問題検討委員会」の組織化に参画し，校内のいじめや不登校，特別支援，海外からの帰国生の受け入れなどの学校コミュニティにおけるさまざまな問題について教師へのコンサルテーションをおこなった。このコンサルテーションを通してもチーム・アプローチの大切さを学んだ。

2-2　企業のカウンセラー，スーパーバイザーとして

教育現場とあわせ，ある企業の人事部に所属する産業カウンセラーとして非常勤ながら6年間ほど活動する機会を得た。そこでは，それまでの病院臨床や教育相談などに求められるものとは大いに異なることにとまどい，産業カウンセリングを基礎から学んだ。特徴的なことは，勤務者のメンタルヘルスの保全と企業の営利追求の姿勢とはともすれば強く対立するということだった。残業さえ減ればと願う勤務者と利潤を上げるためには残業を強いらざるを得ない企業といった対立構図のなかで，こころの支援者としてのカウンセラーはいったい何ができるのだろうかと煩悶した。それは，スーパーバイザーの立場になっても大きな課題であり続け，その後の研究課題である「コンフリクト対立の解決」という問題意識へつながった。

2-3　精神障害者社会復帰事業（デイケア），知的障害者（成人）自助グループ・グループワーカーとして

1980年代ではノーマライゼイションの掛け声のもと，それまでの施設福祉から地域福祉へのパラダイムシフトが進み，精神障害者の社会復帰事業としてのデイケア・プログラムが推進され始めた。その動きのなかで東京都北区滝野

川保健所に創設されたデイケア事業のグループワーカーとして，週２日勤務することとなった。ここでは保健師・医師とのチームワークが求められたが，それ以外にもプログラム講師として音楽・体操・書道・アートなどの専門家と協働で参加メンバーの自主性を重んじたプログラム実践をこころがけた。そのころメンバーの方々と一緒に練習を重ね，「夕鶴」や「笠地蔵」をモチーフにした音楽劇などを文化祭で実施したことなど印象に残っている。自主性ということでは家族会の立ち上げ支援とその後の作業所開設に向けた家族会の自主的活動も印象深い。そのような家族会の活動は，当時では先駆的といわれた知的障害者（成人）の自助グループにおいてもだんだん顕著に認められていったもので，このような家族会の方々との協働には実に多くを学ばせていただいた。

2-4　在日外国人の専門相談員

デイケア事業が推進されるに続き，東京都北区では国際化（グローバリゼイション）の波で在住外国人が目立ちはじめ，その対策として創設された外国人専門相談窓口の非常勤専門相談員としての要請を受けた。グループワーカーとして精神障害者や家族の抱えるコンフリクトにも対処していたが，それに加え異文化間に生じる地域の様々なレベルのコンフリクトの解決・相談業務にも関わることになったのである。たとえば，毎日東南アジア人の隣家の換気扇を通してのニンニク料理の臭いに耐えられないと訴える日本人住民からの相談や国際結婚家族間のコミュニケーションギャップから生じる心理的問題や暴力の問題といったデリケートで深刻な問題にも直面した。それらの地域の国際化によってもたらされる文化的コンフリクトの解決にあたっては，いわゆる実務処理型だけで，心理的ケアという側面は臨床心理学の教科書にもほとんど取り上げられていず，その対応に困惑した。

以上のようなコミュニティにおける臨床実践の場を得て，当事者・家族・いろいろな立場の専門家との出会いを得た。そこからは，発達と障害について，その支援のあり方としてコミュニティ・アプローチの重要性を強烈に実感した。また，心理臨床に携わるということが，いわゆるこころの癒しといったものにとどまらず，目前のコンフリクトをどう解決していくかという問題にも関わっていければとの願いを抱くようになった。

３．多文化カウンセリングの実践

3-1　留学生カウンセリングの体験を通して

地域の外国人専門相談員という経験もあって，1991年からは国費留学生のカウンセラーとして，全寮制の大学教育機関（現：東京外国語大学留学生日本語教育センター）で奉職することになった。そのセンターでは，世界中のさまざまな国からの留学生のまさに昼夜に亘る生活の場で生じる多文化間の問題に対応することとなった。そこで体験したもっとも大きな気づきは，「自己実現」という場合の自己のとらえ方についてである。それまで私はその人自身（円の中心の“自己”）の精神的健康や自己実現を支援していくことこそが肝要だと信じていた。しかし，自分の食事代を削ってまで母国の兄弟の学費を必死で送金しようとするアジア系留学生の支援をしたりする時，彼らの“自己”はまるで楕円の中心が２個あるように“家族も含めた自己”であることに気づかされ，自分が西欧型の心理学理論でのみ“自己”を捉えていたこと，そして世界観としての文化的な視点の重要性に衝撃を受けた。アセスメント然りで，椰子の木を多く描くバウムテストやスピリチュアルな反応も多いロールシャッハテスト，文化差のため知識問題で得点が平均を大きく下回ることもある知能テストなど，判定の基準に文化的要因が考慮されていないことに頭を悩ませた。こうした多文化カウンセラーとしての活動がそれまでの自分の自文化中心主義への反省とその後

の心理臨床の取り組みの姿勢へ決定的な影響を与えた。

はじめての多文化カウンセリングのケースは，２民族の血を受け継ぐオセアニア出身の留学生であった。彼は青年期のアイデンティティの確立を巡って，一方の父方の先住民の血を蔑視し，その血を身体から末梢するには自殺するしか方法がない，と必死な面持ちで訴えた。視力は5.0だと主張していたアフリカからの留学生は日本の空気は透明でないとしきりに目の充血と視力低下を訴えた。トイレやシャワーの使い方なども出身国によって千差万別で，規則やルールの考え方すらも異なった。時間の観念が厳格な国の学生と緩やかな国の学生は寮内でことごとく対立し，時に互いの国の誇りを傷つけられたと民族紛争の様相をなした。１日に何度かの祈りを行う学生をめぐる宗教的対立や近隣から苦情が絶えない騒音問題・ゴミ問題も多く生じた。

3-2　包括的支援の重要性への気づき

このような様々な事例を通して，また，当時，私は地域の男女共同参画審議委員として，あるいは家庭裁判所調停委員として，いろいろな立場の方々の地域での問題にも関わっていたので，多文化間メンタルヘルスへの対処がそれまでの臨床心理学モデルの対応だけでは十分ではなく，より発達的，文化的，コミュニティ的なアプローチでの包括的な対処が必須であると強く考えるに至った。それは，自分の中では“多文化カウンセリングとコミュニティの遭遇”といったインパクトある気づきであったので，おこがましいとは自覚しつつ「マクロ・カウンセリング理論」（井上，2000）として考えをまとめた。

４．カウンセリング心理学の教育・研究そして様々な出会いと研鑽の機会を通して

4-1　実践活動との出会い

1998年からは明治学院大学で臨床心理学，コミュニティ心理学，異文化間心理学（多文化カウンセリング）などの教鞭をとることとなり，さまざまな多文化領域の研究者や教育者・実践者の方々との出会いを得た。たとえば，ラテン系住民の多さで知られる愛知県の保見団地や関東圏のいろいろな地区での日本語教室運営，バンコクでの「こころの電話」活動など，地域の国際交流に取り組むボランティの方々との出会いがあり，目が開かされる思いだった。また，特に記憶に残る異文化体験は，1999年の総務庁『世界青年の船』にアドバイザー（カウンセラー）として乗船したことである（井上，2001）。約300名の世界各国の青年たちとの２ヶ月に及ぶ船上生活は毎日が多文化間，世代間ショックに満ち刺激的であった。大きな文化摩擦の事件も起きたが，ホーポノポノ的儀式で和解に至ったことが強く印象に残っている（井上，2005）。

4-2　国内の学会活動を通しての学び

学会活動では関連領域である異文化間教育学会，日本コミュニティ心理学会，日本カウンセリング学会，多文化関係学会などでの共同研究・ワークショップ・シンポジウムを通して，多くの先生方からの貴重な学問的教示を賜った。わけても多文化間精神医学会の会員として研鑽を積ませていただいたことで視野が広がり，多文化間メンタルヘルスの問題への興味・関心がより深まった。

4-3　国外の学会活動を通しての学び

また，ミネソタ大学で隔年開催されていたCross-cultural counseling workshopやアメリカ心理学会（American Psychology Association：APA）のカウンセリング部会やコミュニ

ティ心理学部会などへの参加を通して，カウンセリング・心理療法における cultural perspective の重要性や multicultural counseling competence の発達について学んだ。特にマイクロカウンセリングで知られるアイヴィ（Ivey, A., 2008）が提唱する RESPECTFUL カウンセリング／心理療法における，R（religious spiritual identity）宗教的・霊的同一性，E（economic class background）経済的クラスの背景，S（sexual identity）性同一性，P（psychological maturity）心理的成熟，E（ethnic/racial identity）民族的・人種的同一性，C（chronological/developmental challenges 年齢発達課題，T（trauma and other threats to one's well-being），心身の健康を阻害するトラウマや恐怖，F（family background and history）家族的背景と家族歴，U（unique physical characteristic）独特の身体的特徴，L（location of residence and language diffe-rences）居住地と言語の違い，といった頭文字の文化差を respectful（尊重する）べきであるという考えに大きな刺激を受けた。留学生のカウンセラー体験から提案したマクロ・カウンセリングの考えにおいても，この文化差の視点を持ちたいと考えるに至った。また，平和学者ガルトゥング博士の提唱するコンフリクト場面における解決法としてのトランセンド（TRANSCEND）法（Galtung, J., 2008）にも啓発され，マクロ・カウンセリング理論との統合・発展を志すようになった。

5．多文化間のこころの問題にとりくんだ研究・実践活動からマクロ・カウンセリングの提唱

斉藤（1992）によれば，文化に対する心理学的アプローチは長い過去を持っているが，「民族心理学」，「文化心理学」と伝統的によばれてきたものとは異なった「異文化間心理学」が心理学のなかで独立した研究領域として認められるようになったのは1970年代からとされる。日本においては1978年に星野命先生などの心理学者による「文化と人間」の会が発足してから異文化間（心理学）分野の研究が盛んになってきた。私も，1990年代に在日外国人や留学生の相談活動の実践をスタート地点とし，その後の共同研究の成果を学会発表や論文の形で発表してきた。幸いそれらを（1）留学生関連の本『留学生の異文化間心理学』（井上,2001）と（2）マクロ・カウンセリング理論関連の本『紛争（コンフリクト解決のカウンセリング）』（井上, 2012）の2冊の本として出版する機会を得た。それらの2冊の本の目次を示すことが自分の多文化間のこころの問題にとりくんだ研究・実践活動を振り返ることにつながると思い，ここに紹介させていただきたい。

5-1　主に留学生の相談活動を通しての研究活動

留学生の相談活動に関連した一連の論文は，2000年3月に学位論文「留学生の文化受容と援助の心理学的研究」（九州大学）としてまとめ，翌2001年に日本学術振興会の科学研究費補助金｛研究成果公開促進費｝（一般学術図書）の交付を受けて『留学生の異文化間心理学：文化受容と援助の視点から』として出版した。目次の概略，および初出文献は以下の通りである。

『留学生の異文化間心理学：文化受容と援助の視点から』

序章　留学生をめぐる心理的問題

第Ⅰ部　留学生の文化受容態度と適応

1章　来日1年目の留学生の文化受容態度

1節　来日1年目の留学生の文化受容と健康（井上・伊藤,1995）

2節　留学生の来日1年目の文化受容態度と精神的健康（井上・伊藤, 1997）

3節　来日1年目の留学生の文化受容体態度をめぐる諸要因

2章　留学体験者の文化受容態度と日本留学満足度と適応

1節　留学生の文化受容態度と留学生の満足度：在学生の場合（井上，1996）

2節　留学生の卒業後の文化受容態度と日本留学の満足度:卒業生の場合（井上, 1996）

3章　来日1年目の留学生の事例研究

1節　「分離」から「統合」へ：女子留学生の「留学生生活」イメージ（井上 ,1997）

2節　「周辺化」から「統合」へ：アジア系留学生の「良い授業」のイメージ（井上・伊藤 ,1997）

第II部　留学生援助の課題と方法

4章　留学生の実態

1節　中途退学した留学生（井上・伊藤 , 1998）

2節　留学生相談の実態と課題：全国高等教育機関の調査（伊藤・井上 ,1998）

3節　留学生の中途退学：国費留学生の実態調査（井上・谷・土屋 ,1997）

5章　カウンセリングとPAC分析

1～5節（井上 , 1998）

6章　留学生援助と心理教育

1節　心理教育とは何か

2節　留学性と日本人学生の混合グループに対する心理教育：WAKSASモデルの提案（井上・田中・鈴木 , 1997）

3節　留学生教育関係者の心理教育：WAKSASモデルによる異文化間臨床心理学セミナーの実践（井上 , 1998）

7章　留学生援助の事例研究

1～2節（井上 ,1997）

8章　留学生援助とカウンセリング活動

1～5章（井上 , 1997）

終章　文化受容と援助の総合的考察

本書はベリー（Berry, J. W., 1980のacculturation　attitude理論とキム（Kim, U., 1988）の調査研究を参考に，自分自身の留学生へのカウンセリング活動の経験をもとに，質問紙調査の結果や公開することを了解してもらったカウンセリング事例を通して，日本に来日した留学生がどのように異文化である日本文化を精神内に取り入れていくのかという「文化受容態度と適応の関連」（第I部）と「留学生援助の課題と方法」（第II部）の主に2つのテーマについて論述したものである。この場合，acculturationは「文化変容」と訳されることが一般的かもしれないが，本書では留学生が文化によって自分を変容させられるのではなく，文化を受容して自己形成していくという意味合いを込めて「文化受容」という訳語を用いている。これらの研究を進めていくなかで，多文化カウンセリングのあり方について思索を巡らすようになった。そして，1対1の関係性を重視するいわゆる伝統的なカウンセリング理論だけでなく，本人の社会・文化的に多様な人間関係をもふまえた関係性を問題にするコミュニティ心理学的アプローチに研究のテーマも広がっていった。

5-2　マクロ・カウンセリング理論の展開

留学生カウンセリング活動を通して，発達的・文化的・コミュニティ的アプローチを3つの源泉とするマクロ・カウンセリングの考え方を2000年より提唱し始めた。「留学生」は「留まる学生」であるわけで，学校コミュニティの成員と捉えることが大事であり，多文化間で生じる紛争（コンフリクト）への予防的な取り組みやそういうプログラムの評価（エンパワーメント評価）もまた，重要であるという視点で共同研究を進めてきた。それらは勤務校の明治学院大学心理学部紀要に発表してきたが，幸いなことに2011年度学術振興基金補助金（明治学院大学）を受けることができ，紀要原稿をまとめる形で『コンフリクト解決のカウンセリング』として発刊できる運びとなった。目次の概略，および初出文献は以下の通りである。

『コンフリクト解決のカウンセリング』

第1部　マクロ・カウンセリングとコンフリクト解決

1章　「マクロ・カウンセリング」の考え方とカウンセラーの役割（井上 .2000）

２章　マクロ・カウンセリングにおける共感の意義：共感的コミュニケーションと多文化共感性の教育（井上，2003）
３章　臨床心理学における「エンパワーメント」の概念とマクロ・カウンセリングでの位置づけ（井上・榊原，2005）
４章　マクロ・カウンセリングの14の活動とトランセンド法（井上，2002）
第２部　学校におけるコンフリクトとその解決
５章　高校コンサルテーションの実際と理論的課題－コーディネーション委員会へのコンサルタントとしての関わりを通して（井上，2007）
６章　学校カウンセリングにおけるMEASURE評価法は日本で活用可能か（井上・野内，2006）
７章　高校のステークホルダーがかかえるコンフリクトの構造：レパートリーグリッド法とHITY法による個人別態度構造分析－（井上・伊藤，2009）
８章　高等学校のステークホルダーの葛藤対処方略スタイルと適応：教職員のバーンアウト傾向及び学校特性の認知との関連（井上・いとう・飯田，2011）
第３部　家庭と多文化コミュニティにおけるコンフリクトとその解決
９章　社会的ひきこもり青年へのマクロ・カウンセリング的アプローチ：PAC分析による心理的理解とトランセンド法（井上，2004）
10章　「世界青年の船」日本人参加青年の体験の意義とマクロ・カウンセリング的援助（井上，2001）

本書は３部から構成され，まず第１部では，マクロ・カウンセリングとコンフリクト解決について基礎となる論文と論考をまとめた。第１章では，マクロ・カウンセリングの考え方とカウンセラーの役割とマクロ・カウンセリングの理論的背景として文化的を含める３つのアプローチを取り上げ包括的な理論化を展開している。第２章では，カウンセリング実践における共感性の位置付けとその教育，および多文化共感性の概念を提示している。第３章では，マクロ・カウンセリングにおけるエンパワーメント概念の意義と位置づけとカウンセラーの14の役割とエンパワーメントとの関連も考察している。第４章では，マクロ・カウンセリング活動と心理的コンフリクトの解決技法として位置づく「トランセンド法」との関係から分析している。

第２部では，学校におけるコンフリクトとその解決について，主に公立高校における実践を通しての論考をまとめた。第５章では，高校コンサルテーションの実際と理論的課題について，第６章では，学校カウンセリングにおける評価法として米国で開発されたMEASUREという方法について，その手続きと例を示してその概要を説明している。第７章では，学校内コンフリクトの解決にあたって，ステークホルダーのコンフリクトの構造について，レパートリーグリッド法とHITY法による個人別態度構造分析を用いて探求している。第８章では，学校での葛藤対処方略スタイルは，教職員の精神的健康との関連の強さの観点からその重要性を明らかにしている。

第３部では，家庭と多文化コミュニティにおけるコンフリクトとその解決について，それぞれマクロ・カウンセリング実践を通しての論考をまとめた。第９章では，ある社会的ひきこもり青年への発達的援助のあり方として，自己と社会との接点を結びつけるマクロ・カウンセリング的アプローチの有効性について検討している。その際，心理的コンフリクト解決にはトランセンド法を用いている。第10章では，「世界青年の船」のカウンセラーとして乗船し参与観察した筆者の経験を通して，多文化コンフリクトをかかえる参加青年への発達的援助を報告し，マクロ・カウンセリングの有効性について検討している。

5-3 「心理支援論」の協働的な教育実践活動

1998年より明治学院大学心理学科に奉職するようになり教育・研究の機会を得たことは，それまでの自分の歩みのまとめの場を得た思いであった。わけても，「心理支援論」の教育実践を様々な立場の方々と協働的に進めることができたことは大事な宝であり，ありがたく感じている。

明治学院大学心理学部は，大学のかかげる“Do for others”（他者への貢献）の精神のもと，「こころを探り，人を支える」を教育理念として2003年に学部としてのスタートを切り，以後,教員間の何度かにわたる話し合いを通して,「心理学部で何を学んだか」を明確にしたいという学生の要望に応えるには，学部の教育理念をカリキュラムとして具体的に示すことの必要性を模索していた。その結果生まれたのが,「心理支援論」の構想だった。心理学部の教育理念とコミュティの支援ニーズとを統合した新たな心理学教育をめざして，4年間にわたる基幹科目「心理支援論」（必修）の学修により,「心理支援力」を身につけた人材を育成することをカリキュラムの根幹に位置づけたのである。心理支援力とは，支援を求めている人々に共感的に関わって問題解決を図ることの出来る力，つまり自己理解力，自己コントロール力，他者理解力，関係形成力，他者支援力などの総合的な力で，その習得には確かな心理学の基礎知識と体験的な学習の蓄積が必須であることをカリキュラムの形で示したことになる。

また，心理支援力は，ストレスの多い現代社会において，自己の精神的健康を維持し，また周囲の人々を心理的に支援していく「人間力」といえるものであり，複雑化し高度化する社会において今後ますます求められる基本的な力であると考えた。そこで，そうした心理支援力の育成のために，広く学内外の資源を活用した教育システムが創案された。「体験活動サポート室」の設置によるコミュニティ資源を活用する，大学講義の学びを学外での体験活動で実習・確認し，さらにその体験を基に大学内での学びにつなぐという循環型の教育システムである。それにより学年進行に対応した理論学習と体験学習を統合して，段階を踏みながら心理支援力を身につけていけるようにしたのである。加えて学部生に対する大学院生による指導，および教員による大学院生への指導といった階層的スーパービジョン・システムも導入し，それらのプログラムをエンパワーメント評価するという心理支援力育成のための包括的な教育プログラムにまとめ，2006年より学部全体で実践の取り組みをはじめた。この取り組みは翌年2007年度の明治学院大学研究プロジェクトに採択され，またその次年度の2008年には幸運にもプログラム「心理支援論：心理学教育の新スタンダード～コミュニティ資源を活用した体験活動および循環型教育システムの導入と評価」は，文部科学省の大学改革推進等補助金「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に選定されたのである（井上・山﨑・藤崎, 2011）

このプログラムは，いわば明治学院大学心理学部コミュニティの協働実践といえるもので，一大学の心理学部の試みではあるが，こころの世紀と称される21世紀にあって,「心理支援論」の学びによる心理支援力ある人材の育成を通して，今後の心理学教育のあり方を模索した体験は大変貴重なものとなったと思っている。

6 これからの課題

6-1 多元化社会のコンフリクト解決にあたってのマクロ・カウンセラーの役割

私は在日外国人の多文化間のコンフリクト解決における包括的支援の重要性の視点から2000年よりマクロ・カウンセリング理論を提唱し，以下の14のマクロ・カウンセラーとしての活動を提示した。すなわち，①個別カウンセリング，②心理療法（サイコセラピー），③関係促進（ファシリテーション），④専門家組織化（リエゾン／ネットワーキング），⑤ 集団

活動(グループワーク),⑥仲介・媒介(インターメディエーション),⑦福祉援助（ケースワーク),⑧情報提供・助言（アドバイス),⑨専門家援助（コンサルテーション),⑩代弁・権利擁護(アドボカシー),⑪社会変革(ソーシャル・アクション),⑫危機介入(クライシス・インターベンション),⑬調整（コーディネーション),⑭心理教育（サイコエディケーション）の14の活動である。

それらは多様化・多元化するこれからの社会生活の場面で我々が体験するさまざまなレベルのコンフリクトに対して有効な活動であると考えられる。今後は，RESPECTFULカウンセリングにおける文化差の考え方に基づき，多文化共感性をもって上記のような包括的な支援を行うこと，およびその基礎となる研究やトランセンド法の実践なども継続して行なっていきたい。また，震災地の復興支援などにも参加していければと願っている。

6-2 Multicultural counseling competence（MCC：多文化を扱う能力）の発達支援

2002年8月にアメリカ心理学会のポリシーとして『心理学者のための多文化教育，訓練，研究，実践，組織的変革に関するガイドライン』(APA, 2003）が承認され，心理学，カウンセリング心理学の分野でMulticultural competenciesはもっとも重要な単語のひとつになった。ガイドラインでは，自己と他者の文化的気づきと知識へ関与するよう求め，教育，訓練，研究，実践，組織的変革の過程でculture-centeredな立場であることが求められている。

日本の臨床心理士養成課程におけるMCCの位置づけについては，鈴木（2011）によれば，講義内容に7.5％しかとりあげられていず，心理支援の最前線に立つ臨床心理士とその職能団体や学会がこれらのニーズを把握できていない可能性が示されている。特に，RESPECTFULカウンセリングの観点からみると，「年齢・発達的な課題」「トラウマと幸福感への脅威」「家族の背景と家族史」「独特な身体的特徴」については多く取り上げられているが，「宗教的・霊的アイデンティティ」,「経済階層的背景」「性同一性」「民族・人種的同一性」「居住地域と言語の違い」については，ほとんど，あるいはまったく取り上げられていない。また別の視点では，個人的・家族的要因や生物学的な要因（生涯発達や障害)の講義は比較的多く行われているが，人間の社会・文化的な側面（経済階層や宗教，民族性や言語など）や日本社会ではタブー視されがちな性的指向の問題については，ほとんど扱われていない。日本においても，多様なクライエントのニーズを踏まえた，多文化や多様性についての臨床心理士への教育・訓練と啓発活動の強化が求められよう。今後はこのMCCの発達支援の研究・教育に取り組んでいきたい。

6-3 Social Justice（社会的正義）とアドボカシーの推進

多文化的視点は，民族や国籍の違いだけではなく，RESPECTFULの枠組みで示された宗教観や性的志向など，多様なクライエントへの理解を含んでいる。その場合，心理的な問題が個人的な要因だけではなく，社会的に抑圧・阻害されることによって生じ，個人のアイデンティティやその発達にも大きな影響を及ぼすことが考えられる。1970年代アメリカでは社会的・政治的変革の波によりクライエントのwell-beingを向上させるため，カウンセラーに対しアドボカシー（代弁・擁護する，変革する）という方法を使ってクライエントの抱える問題に介入するアドボケートとしての役割への期待が高まった。1987年には，アメリカカウンセリング学会（American Counseling Association：ACA）は，人権に関する論文を発表し，カウンセラーにとって不可欠な能力として周辺化された人々の権利のためのアドボケートについて初めて論じている。2000年にはACA会長がアドボカシーコンピテンス委員会（Advocacy Competencies Task Force）を発足し，カウン

セラーが，クライエントの well-being と成長の障害を取り除くための提言と行動が議論された。2009 年には，Journal of Counseling & Development で，アドボカシーコンピテンスの特集が組まれ，①個人，②コミュニティと学校，③社会，の視点から考察されている。現在では教育領域，キャリア発達や産業カウンセリングなどの産業領域，さらにジェンダーや高齢者問題など幅広い領域に応用されつつある（Ratts, et al.,2010）。

アドボカシー能力の 6 領域（Lewis, *et al.*, 2005：井上，2005）（図 1）については，①クライエントのエンパワー，②コミュニティ / 学校との協働（コミュニティに内在する圧力やシステム的な障害に直面するクライエントとともにアドボケートする），③公共的な情報（一般の人々の理解（気づき）を促したり，マルチメディアをうまく使うスキルを身につける，④クライエントのアドボカシー（クライエントがセルフアドボカシーに必要なスキルを身につけられるよう支援する），⑤システムのアドボカシー（組織の中にある権力の源泉を分析する能力，資料を有効に使うスキルを身につける），⑥社会的・政治的アドボカシー（公共政策や法律に存在する社会的な制限や社会的不平等のある事象や人々のために行動する）などの能力が重要とされる。今後は，文化的マイノリティへの社会的正義という公平性を標榜するカウンセリングについて研究・実践していきたいと願っている（津田・伊藤・井上 , 2011 など）。

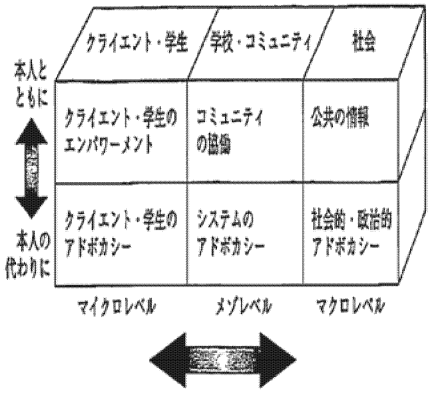

図 1　アドボカシー能力の 6 領域
（Lewis, *et al.*, 2005：井上，2005）

おわりに

幸いにも最終講義の機会を得て，自分のサイコロジストとしての歩みを振りかえさせていただき，改めて多くの方々にお世話になってきたことに深く思い至った。同時に，これからの自分なりの課題やそれに向けての目標や望みも見えてきたように思う。その一環として，退職時に大学の出版助成を受けて，「臨床心理士・カウンセラーによるアドボカシー：生徒・エイズ，吃音・精神障害者，性的・民族的マイノリティ，レイプ・ＤＶ被害児（者）の声を聴く」を卒業生との協働で編集刊行することが出来たことは大きな喜びであった。今後も，地道にサイコロジストとしての歩みを続けていくことが御恩返しにつながるものと信じている。たとえば研究活動としては医師の生き方研究，実践活動としてはエグゼクティブ・カウンセリングなどを行なって行きたいと考えている。また，海外邦人支援（JAMSNET 東京），早くに養育者を亡くしたお子さんの支援（AIMS），東南アジア保育支援の会，東北罹災者支援（Voice of Tohoku, IsraAID）などの NPO 法人におけるボランティア活動もささやかながら継続して行きたいと願っている。

おわりに，ハワイのセルフ・ホ・ポノポノ（山下，2008）において人生に大切な 4 つの言葉として知られる,「すみません」「許してください」「愛しています」「「ありがとう」に気持ちを託したいと思う。これまでの教育・研究・実践活動については不十分だったかもしれないことに対して，申し訳ない，お許し願いたい，でも心から敬愛する皆様から頂いたご厚誼にこころよりお礼申し上げたい。そして，最後に，メンタルヘルスの専門家のひとりとして，５つ目として, 皆様に「お元気で！」という言葉を添えたい。

謝辞

2013 年 3 月 20 日に最終講義と退職記念祝賀会を心理学部教職員の皆様と卒業生・修了生の皆様が共催で開催してくださいました。呼びかけ人代表の金子　健心理学部長と事務局代表の横澤直文心理学部助手をはじめ，ご賛同くださいました皆様にこころよりお礼申し上げます。当日の多くの卒業生のゴスペル「Oh! Happy days」は忘れられない思い出となりました。

在職中，教育・研究の機会を与えていただきました明治学院大学の学生・教職員の皆様に衷心よりお礼申し上げます。そして出版活動において，惜しみないご助力をいただいた川島書店の杉秀明様，風間書房の風間敬子様に深く感謝申し上げます。

付記　本稿は井上孝代（2012).「多文化カウンセリングとコミュニティのクロスロード：RESPECTFUL カウンセリング／心理療法とマクロ・カウンセリングの考え方　こころと文化，11, 18-26.」に修正加筆したものです。記して謝意を表します。

参考・引用文献　（文献の一部は本に所蔵されており省略させていただいている）

American School Counselor Association (2003). *The American School Counselor Association national model : A framework for school counseling programs*. VA : ASCA.（中野良顯訳（2004）．スクール・カウンセリングの国家モデル：米国の能力開発型プログラムの枠組み　学文社）

Berry, J .W. (1980). Acculturation as varieties of adaptation. In A Pdila (Ed.), *Acculturation: Theory, models ad some new findings* (*pp. 9-25*). Boulder, CO :Westview

Galtung, J. (2008). *50 Years:100 peace and conflict perspective*. Transcend University Press.

井上孝代（1997）．留学生の発達援助　（共著）1997　多賀出版

井上孝代（編）（1998）．多文化時代のカウンセリング　現代のエスプリ，377　至文堂

井上孝代（1999）．留学生担当者のためのカウンセリング入門　アルク

井上孝代（2000）．「マクロ・カウンセリング」の考え方とカウンセラーの役割　明治学院大学心理学紀要 , 10, 29-41.

井上孝代（2001）．「世界青年の船」日本人参加青年の体験の意義とマクロ・カウンセリング的援助　明治学院大学　心理学紀要 , 11, 5-20.

井上孝代(2001)．留学生の異文化間心理学（単著）　玉川大学出版部

井上孝代（編）（2004）．共感性を育てるカウンセリング:援助的人間関係の基礎（マクロ・カウンセリング実践シリーズ（1）川島書店

井上孝代（2005）．コンフリクト転換のカウンセリング－対人的問題解決の基礎（マクロ・カウンセリング実践シリーズ２）（共著）川島書店

井上孝代（2005）．学校臨床におけるカウンセラーの多面的・包括的役割：アドボカシー概念を中心にスクールカウンセラーの専門性を問う：下司昌一・井上孝代・田所摂寿（編）カウンセリングの展望：今カウンセリングの専門性を問う　東京ブレーン出版 pp. 245-259.

井上孝代（2006）．コミュニティカウンセリング：福祉・教育・医療のための新しいパラダイム（共著）川島書店

井上孝代（2007）．つなぎ育てるカウンセリング―多文化教育臨床の基礎（マクロ・カウンセリング実践シリーズ）（共著）川島書店

井上 孝代（2007）．スクールカウンセリングの新しいパラダイム：　MEASURE 法による全校参加型支援（共著）風間書房

井上孝代（編）（2008）．エンパワーメントのカウンセリング　マクロ・カウンセリング実践シリーズ（5）. 川島書店

井上 孝代（2008）．PAC 分析研究・実践集 1（共著）ナカニシヤ

井上孝代（2012）．紛争（コンフリクト）解決のカウンセリング　風間書房

井上孝代（2012）. 多文化カウンセリングとコミュニティのクロスロード：RESPECTFUL カウンセリング／心理療法とマクロ・カウンセリングの考え方 こころと文化，11, 18-26.

井上孝代（編）（2013）．臨床心理士・カウンセラーによるアドボカシー：生徒・エイズ，吃音・精神障害者，性的・民族的マイノリティ，レイプ・ＤＶ被害児（者）の声を聴く　風間書房

井上孝代・伊藤武彦（監訳）（2010）．プログラムを成功に導く GTO の 10 ステップ：計画，実施，評価のための方法とツール　風間書房

井上孝代・山崎晃・藤埼真知代（編）（2011）．心理支援論 － 心理学教育の新スタンダード構築をめざして　風間書房

Ivey, A.,E., D'Andrea, M., Ivey, M. & Simek-Morgan, l.（2009）. *Theories of Counseling and Psychotherapy: A Multicultural Perspective*（*6th ed.*）Boston, MA: Peason

Kim, U.（1988）. Acculturation of Korean Immigrants to Canada: Psychological demographic and behavioral profiles of emigrating Koreans, nonemigrating Koreans and Korean-Canadians. Unpublished doctoral dissertation. Queen's University, Kingston, Ontario, Canada

Lewis, J. A., Lewis, M. D., Daniels, J. A., & D'Andrea, M. J.（2003）. *Community counseling: Empowerment strategies for a diverse society*（*3rd ed.*）. Pacific Grove, CA: Brooks/Cole.（井上孝代監訳，伊藤武彦・石原静子訳　2006　ブレーン出版）

Lieblich, A.（1994）. *Seasons of captivity: The inner world of POWs.* New York :New York University Press.

Ratts, M.J.，Toporek, L. M.，& Lewis, J. A.（2010）. *ACA advocacy competencies: A social justice framework for counselors.* Alexandria, Va：American Counseling Association.

斉藤耕二　（1992）　異文化間心理学ことはじめ 254-255 「異文化間関係学の現在」星野命（編）　金子書房

鈴木ゆみ（2011）．スクールカウンセラーの多文化カウンセリングコンピテンスの獲得に向けて：臨床心理士養成課程の大学院案内とシラバスの分析　明治学院大学心理学専攻紀要，16，31-47.

津田友理香・いとうたけひこ・井上孝代（2011）．日本におけるフィリピン系青年二世の文化的アイデンティティと心理学的課題，マクロカウンセリング研究 ,9,60-67.

山下英三郎（2009）．ホ’オポノポノ－ハワイ式問題解決法　学苑社

井上孝代・略歴

1944 年 8 月 14 日，韓国・ソウルで生まれ，1 歳の時，釜山から愛媛県・八幡浜市へ，2 歳から大学院修了まで福岡市在住。

福岡市立簀子（すのこ）小学校，福岡市立当仁中学校，福岡県立修猷館高等学校，九州大学文学部哲学科心理学専攻，九州大学大学院心理学専攻修士課程，九州大学大学院博士後期課程心理学専攻単位取得満期退学，博士（教育心理学：九州大学）

・福岡市疋田病院，医療法人至会松口病院などで心理テスター，カウンセラー
・近畿大学九州短期大学，駒澤大学，和光大学などで非常勤講師
・東京都稲城市教育相談所，東京都北区外国人相談窓口などで専門相談員
・（株）三貴人事部，産業カウンセラー，スーパーバイザー
・横浜市家庭裁判所調停委員，参与
・東京都北区滝野川保健所・東京都北区障害者福祉センターで精神障害者デイケア・グループワーカー
・東京都北区障害者福祉センターで知的障害者（成人）デイケア・グループワーカー
などを経て，

1991 年 4 月　東京外国語大学留学生日本語教育センター助教授
1997 年 4 月　同　教授
1998 年 9 月　明治学院大学文学部心理学科教授（～ 2012 年 3 月）
1999 年 4 月　明治学院大学大学院文学研究科心理学専攻主任教授（～ 2002 年 3 月）
2002 年 4 月　明治学院大学文学部心理学科主任教授（～ 2005 年 3 月）
2002 年 4 月　明治学院大学心理臨床センター所員（～ 2004 年 3 月）
2003 年 4 月　明治学院大学国際平和研究所所員（～ 2007 年 3 月）
2006 年 4 月　明治学院大学評議会員（～ 2007 年 3 月）
2007 年 4 月　明治学院大学心理学部長（～ 2012 年 3 月）
2007 年 4 月　明治学院大学心理学部付属研究所長（～ 2012 年 3 月）
2012 年 4 月　明治学院大学副学長（～ 2013 年 3 月）

井上孝代・業績一覧

＜編書＞

宮原英種・井上孝代（1979）. 乳幼児心理学　近畿大学女子短期大学通信教育部

宮原和子・井上孝代（1980）. 青年心理学　近畿大学女子短期大学通信教育部

宮原和子・井上孝代（1987）. 教育心理学　近畿大学女子短期大学通信教育部

井上孝代（編）（1998）. 現代のエスプリ 337：多文化時代のカウンセリング　至文堂

井上孝代（編）（1997）. 留学生の発達援助：不適応の実態と対応　多賀出版

井上孝代他（編）（1997）. 異文化間臨床心理学序説　多賀出版

井上孝代（1999）. 留学生担当者のためのカウンセリング入門（JAFSA ブックレット（2））アルク

井上孝代（2001）. 留学生の異文化間心理学　玉川大学出版部

井上孝代（2005）. あの人と和解する － 仲直りの心理学　集英社新書

井上孝代（編）（2004）. 共感性を育てるカウンセリング － 援助的人間関係の基礎（マクロ・カウンセリング実践シリーズ 1）川島書店

井上孝代（編）（2005）. コンフリクト転換のカウンセリング － 対人的問題解決の基礎（マクロ・カウンセリング実践シリーズ 2）川島書店

井上孝代（編）（2006）. コミュニティ支援のカウンセリング － 社会的心理援助の基礎（マクロ・カウンセリング実践シリーズ 3）川島書店

井上孝代・大西　守（2007）. 新しい自分へ　学芸社

井上孝代（編）（2007）. つなぎ育てるカウンセリング － 多文化教育臨床の基礎（マクロ・カウンセリング実践シリーズ 4）川島書店

井上孝代（編）（2008）. エンパワーメントのカウンセリング（マクロ・カウンセリング実践シリーズ 5）　川島書店

内藤哲雄・井上孝代・伊藤武彦・岸　太一（編）（2008）. PAC 分析研究・実践集 1　ナカニシヤ出版

井上孝代・山崎　晃・藤埼真知代（編）（2011）. 心理支援論 － 心理学教育の新スタンダード構築をめざして　風間書房

内藤哲雄・井上孝代・いとうたけひこ・岸　太一（編）（2011）. PAC 分析研究・実践集 2　ナカニシヤ出版

井上孝代（2012）. コンフリクト解決のカウンセリング：マクロ・カウンセリングの視点から　風間書房

井上孝代（編）（2013）. 臨床心理士・カウンセラーによるアドボカシー：生徒，エイズ，吃音・精神障害者，性的・民族的マイノリティ , レイプ・ＤＶ被害児（者）の声を聴く　風間書房

＜著書（分担執筆）＞

井上孝代（1982）. 青年期の余暇とレクリエーション　村松兼松・菅俊夫（編）現代の青年心理学（第 12 章）　八千代出版

井上孝代（1995）. 外国人留学生の異文化適応とメンタルヘルス　山本他（編）臨床・コミュニティ心理学　ミネルヴァ書房　pp.244-245.

鈴木康明・井上孝代（1995）. 異文化間カウンセリング　渡辺文夫（編）異文化接触の心理学　川島書店　pp.159-168.

井上孝代（1997）. 異文化間カウンセリングと留学生援助　井上孝代（編）異文化間臨床心理学序説（第 1 章）　多賀出版　pp.3-46.

井上孝代（1997）. 異文化間カウンセリング活動とカウンセラーの役割　井上孝代（編）異文化間臨床心理学序説（第 3 章）　多賀出

版　pp.73-102.

井上孝代（1997）. 異文化間カウンセラー　井上孝代（編）異文化間臨床心理学序説（第 10 章）　多賀出版　pp.259-280.

井上孝代（1997）. 留学生のためのカウンセリング活動　井上孝代（編）留学生の発達援助（第 7 章）　多賀出版　pp.135-157.

井上孝代・伊藤武彦（1997）. 異文化間カウンセリングにおけるＰＡＣ分析技法　井上孝代（編）異文化間臨床心理学序説（第 4 章）　多賀出版　pp.103-138.

井上孝代・田中共子・鈴木康明（1997）. 留学生と日本人学生の混合グループに対する心理教育の試み：WAKSAS モデルの提案　井上孝代（編）異文化間臨床心理学序説（第 6 章）　多賀出版　pp.167-192.

井上孝代・谷　和明・土屋順一（1997）. 国費学部留学生の中途退学の実態　井上孝代（編）留学生の発達援助（第 1 章）　多賀出版　pp.13-28.

鈴木康明・井上孝代（1997）. 異文化間カウンセリングの技法　井上孝代（編）異文化間臨床心理学序説（第 2 章）　多賀出版　pp.47-72.

鈴木康明・田中共子・井上孝代（1997）. 英語助手（ＡＥＴ）に対する心理教育的アプローチ　井上孝代（編）異文化間臨床心理学序説（第 7 章）　多賀出版　pp.193-204.

田中共子・井上孝代・鈴木康明（1997）. 日本人社会人に対する心理教育的グループアプローチ：異文化接触の事前学習（1）初回セッションの分析　井上孝代（編）異文化間臨床心理学序説（第 8 章（1））　多賀出版　pp.205-218.

井上孝代（1998）. 多文化時代のカウンセリング理論　井上孝代（編）現代のエスプリ 377：多文化時代のカウンセリング　至文堂　pp.30-40.

井上孝代（2007）. コミュニティ・カウンセリング　日本コミュニティ心理学会（編）コミュニティ心理学ハンドブック　東京大学出版会　pp.236-255.

井上孝代（2011）. カウンセリング心理学と心理支援：多文化多元的コミュニティにおける青年に求められる心理支援力　井上孝代・山崎　晃・藤埼真知代（編）心理支援論 - 心理学教育の新スタンダード構築をめざして（第 15 章）　風間書房　pp.209-224.

井上孝代（2011）. コミュニティ・アプローチの理論と技法　楡木満生・田上不二夫（編）カウンセリング心理学ハンドブック（上巻）　金子書房　pp.134-153.

井上孝代・いとうたけひこ（2011）. ミックス法としての PAC 分析　内藤哲雄・井上孝代・いとうたけひこ・岸　太一（編）PAC 分析研究・実践集２　ナカニシヤ出版　pp.139-156.

いとうたけひこ・井上孝代（2011）. 個人別態度構造分析の一つとしての HITY 法　内藤哲雄・井上孝代・いとうたけひこ・岸　太一（編）PAC 分析研究・実践集２　ナカニシヤ出版　pp.157-176.

井上孝代・大林裕司（2012）. 地域に根ざした勤労者のこころの支援の可能性：東日本大震災における勤労者への支援を通して　渡邊忠・河野慶三・安藤一重（編）いま，産業カウンセラーに求められる役割と実践力　ナカニシヤ出版 pp.89-100.

＜訳書＞

ウィリアムス , J. M. G.　中村昭之（監訳）（1993）. 抑うつの認知行動療法　誠信書房（第 5 章・第 7 章・第 9 章担当）（Williams, J. M. G.（1992）. *The psychological treatment of depression.* New York: Routledge, Chapman and Hall）

ルイス , J. A. 他　井上孝代（監訳）（2006）. コミュニティカウンセリング：福祉・教育・医療のための新しいパラダイム　ブレー

ン出版（Lewis, J. A. 他（2002）. *Community counseling.* New York: Wiley.

ストーン , C. B. & ダヒア , C. A.　井上孝代（監訳）（2007）. スクールカウンセリングの新しいパラダイム：MEASURE 法による全校参加型支援　風間書房（Stone, C. B. & Dahir, C. A.（2006）. *School counselor accountability: A MEASURE of student success (2nd Edition)*. Upper Saddle, NJ: Pearson Education）

チンマン , M., イム , P. & ワンダーズマン , A.　井上孝代・伊藤武彦（監訳）（2010）. プログラムを成功に導く GTO の 10 ステップ：計画，実施，評価のための方法とツール　風間書房（Chinman, M., Imm, P, & Wandersman, A.（2004）. *Getting to outcomes promoting accountability through methods and tools for planning, implementation, and evaluation.* Santa Monica, CA: RAND）

プロチェスカ , J. O. & ノークロス , J. C. 津田彰（監訳）（2010）. 心理療法の諸システム：多理論統合的分析［第 6 版］　金子書房（大西守と第 12 章を共訳）（Prochaska, J. O. & Norcross, J. C.（2009）. *Systems of psychotherapy: A transtheoretical analysis.* Belmont, CA: Brooks/Cole, Cengage learning）

＜論文など＞

井上孝代・宮原和子・仙田美智子（1981）. 現代青年の余暇生活に関する発達的研究 : 高校生・短大生の場合　近畿大学女子短期大学研究紀要 , **11**, 55-70.

仙田美智子・宮原和子・井上孝代（1981）. 現代青年とマスメディア　近畿大学女子短期大学研究紀要 , **11**, 71-93.

宮原和子・井上孝代（1986）. ダウン症乳幼児の発達評価と順序尺度　近畿大学女子短期大学研究紀要 , **16**, 79-88.

宮原和子・井上孝代・宮原英種（1987）. 発達初期の言語教育プログラムの構想と作成　近畿大学女子短期大学研究紀要 , **17**, 9-20.

井上孝代（1988）. アメリカの老人デイケア－“より良い老後”へ , 家族と社会の先進試行　朝日ジャーナル **30**, 59-61.

西山佐代子・井上孝代・田島啓子（1988）. 子どもの空間認知の発達－言語的媒介と映像的媒介の操作特性について　大分大学教育学部研究紀要 , **10**, 187-197.

井上孝代・宮原和子（1989）. 在宅高齢者のコミュニティ・ケアのあり方について：アメリカ・ノースショア地区の事例をもとに　近畿大学九州短期大学研究紀要 , **19**, 93-103.

井上孝代（1990）. 精神障害者の地域デイケア・グループワークに関する考察 I : 地域福祉の一つの柱としての実践を通して 駒沢社会学研究 , **22**, 27-41.

井上孝代（1991）. 分裂病者を対象とするデイケアにおけるプログラムの意義について 集団精神療法 , **7**, 55-58.

井上孝代（1991）. 精神障害者の地域デイケア・グループワークに関する考察 II : 社会適応経過について　駒沢社会学研究 , **23**, 27-39.

井上孝代（1991）. 思春期の学校不適応：A 君の事例とコミュニティ・サポート　東京都稲城市教育相談所紀要 , **18**, 45-49.

井上孝代（1992）. 幼児の社会性の発達について：「とりあい場面」における 3 歳児の攻撃性　子どもの城保育研究資料集，**1**, 25-38.

井上孝代・伊藤武彦（1993）. An intervention model for adjustment process of foreign residents in Japan: Cases of the Chinese　東京外国語大学留学生日本語教育センター論集 , **19**, 207-217.

Inoue, T., & Ito, T.（1993）. Acculturation problems of foreigners in Japan　*Japanese Health Psychology,* **2**, 64-74.

鈴木康明・井上孝代（1993）. 留学生とカウンセ

リング（1）：日本人イメージの特徴と変化からみたカウンセリングを行なう際の留意点　東京外国語大学留学生日本語教育センター論集 , 19, 187-206.

井上孝代・鈴木康明（1994）. 留学生とカウンセリング（3）：留学初年度の生活指導におけるカウンセリング活動の意義　東京外国語大学留学生日本語教育センター論集 , 20, 127-141.

鈴木康明・井上孝代（1994）. 留学生とカウンセリング（2）：言葉の問題を契機に自己評価が下がった男子留学生の事例　東京外国語大学留学生日本語教育センター論集 , 20, 113-126.

井上孝代・伊藤武彦（1995）. 来日 1 年目の留学生の異文化適応と健康：質問紙調査と異文化間カウンセリングの事例から　異文化間教育 , 9, 128-142.

井上孝代・鈴木康明（1995）. 文部省 REX 計画の事前研修における異文化間臨床心理学の授業報告　東京外国語大学留学生日本語教育センター論集 , 21, 141-153.

鈴木康明・堀　洋道・井上孝代（1995）. 異文化カウンセリングにおけるカウンセラーの役割に関する研究：外国人留学生を対象とする事例から　教育相談研究 , 33, 17-24.

井上孝代（1996）. 国費学部留学経験者における卒業後の日本留学の満足度とアカルチュレーション態度　駒沢社会学研究 , 28, 43-61.

井上孝代（1996）. 外国人留学生のアカルチュレーション態度と留学生活の満足度　東京外国語大学留学生日本語教育センター論集 , 22, 209-221.

井上孝代・土屋順一・谷　和明（1996）. 国費学部留学生の退学とその要因：「国費学部留学生に関する調査報告」（1995）をふまえての一考察　東京外国語大学留学生日本語教育センター論集 , 22, 193-208.

井上孝代（1997）. 留学生の文化受容態度とカウンセリング :PAC 分析による事例研究を通して　カウンセリング研究 , 30, 216-226.

井上孝代（1997）. 留学生のカウンセリング - 意義と課題　留学交流 , 9, 2-5.

井上孝代・伊藤武彦（1997）. 留学生の来日 1 年目の文化受容態度と精神的健康　心理学研究 , 68, 298-304.

井上孝代（1998）. 平成 8・9 年度科学研究補助金研究成果報告書　東京外国語大学

井上孝代（1998）. カウンセリングにおける PAC（個人別態度構造）分析の効果 心理学研究 , 69, 295-303.

井上孝代（編）（1998）. 多文化時代のカウンセリング　現代のエスプリ , 377, 59-67.

井上孝代・伊藤武彦（1998）. 留学生相談の実態と課題：全国高等教育機関の調査から 学生相談研究 , 19, 22-32.

伊藤武彦・井上孝代（1999）. 留学生の中途退学者の全国調査　学生相談研究 , 20, 38-48.

井上孝代（2000）.「マクロ・カウンセリング」の考え方とカウンセラーの役割　明治学院大学文学部心理学科 心理学紀要 , 10, 29-41.

井上孝代（2001）.「世界青年の船」日本人参加青年の体験の意義とマクロ・カウンセリング的援助　明治学院大学文学部心理学科 心理学紀要 , 11, 5-20.

井上孝代（2002）. マクロ・カウンセリング」の考え方とカウンセラーの役割　マクロ・カウンセリング研究 , 1, 75-87.

井上孝代（2002）. マクロ・カウンセリングの 14 の活動とトランセンド法　明治学院大学文学部心理学科 心理学紀要 , 12, 1-16.

井上孝代（2003）. マクロ・カウンセリングにおける共感の意義：共感的コミュニケーションと多文化共感性の教育　明治学院大学文学部心理学科 心理学紀要 , 13, 1-11.

井上孝代（2003）. 心理学と多文化間精神医学の協働：マクロ・カウンセリングの考え方から　マクロ・カウンセリング研究 , 2, 50-

58.
井上孝代・原　裕視・高畠克子他（2003）. シンポジウム コミュニティとカウンセリング コミュニティ心理学研究 , **6**, 105-107.
井上孝代（2004）. これからの社会に求められる異文化間カウンセリング－「マクロ・カウンセリング」の視点から　異文化間教育 , **20**, 40-55.
井上孝代（2004）. 文献目録 異文化間教育 文献目録（20）　異文化間教育 , **20**, 102-120.
井上孝代（2004）. 社会的ひきこもり青年へのマクロ・カウンセリング的アプローチ：PAC 分析による心理的理解とトランセンド法　明治学院大学文学部心理学科 心理学紀要 , **14**, 17-30.
Seto, A., Inoue, T., & Forth, N.（2005）. An overview of shool counseling certifications in Japan. マクロ・カウンセリング研究, **4**, 29-34.
阿部　裕・井上孝代・林　香里他（2005）. 日系ペルー人のアンケート調査とペルーの精神医療事情　明治学院大学心理学部付属研究所紀要 , **3**, 103-109.
井上孝代・榊原佐和子（2005）. 臨床心理学における「エンパワーメント」の概念とマクロ・カウンセリングでの位置づけ　明治学院大学文学部心理学科 , **15**, 35-48.
阿部　裕・野内　類・井上孝代他（2006）. 在日ラテンアメリカ人のメンタルヘルス　明治学院大学心理学部付属研究所紀要 , **4**, 39-49.
井上孝代（2006）. ハワイのコミュニティ心理学と平和教育　コミュニティ心理学研究 , **9**, 116-122.
井上孝代（2006）. プロジェクト活動報告 平和教育研究プロジェクト　プライム , **23**, 47-49.
井上孝代（2006）. シンポジウム 異文化接触と第一世代・第二世代－身体（からだ）とこころとコミュニティ　異文化間教育 , **24**, 63-75.
井上孝代（2006）. 心理学からみた「法と対話」－ 紛争解決の心理と対話　法律時報 , **78**, 54-59.
井上孝代（2006）. 対立を乗り越えるための「共感力」 第三文明 , **559**, 28-30.
井上孝代・野内 類（2006）. 学校カウンセリングにおける MEASURE 評価法は日本で活用可能か　明治学院大学 心理学紀要 , **16**, 19-30.
榊原佐和子・野内　類・飯田敏晴・井上孝代（2006）. 在日外国人のヘルプシーキング：研究の現状と今後へ向けて　こころと文化 , **5**, 23-28.
横澤直文・井上孝代（2006）. 思春期を対象とした電子メールによるピア・サポート　思春期学 , **24**, 392-399.
井上孝代（2007）. 企画主旨説明（特集 学校現場へのコミュニティアプローチとその評価）　コミュニティ心理学研究 , **11**, 1-4.
井上孝代（2007）. 高校コンサルテーションの実際と理論的課題－ コーディネーション委員会へのコンサルタントとしての関わりを通して　明治学院大学文学部心理学科 心理学紀要 , **17**, 9-24.
井上孝代（2007）. 見つめ直したい，子どもたちへの接し方　第三文明 , **573**, 23-27.
井上孝代（2007）. 臨床の場における臨床心理士の専門性と連携　外来精神医療 , **6**, 106-107.
井上孝代・大橋敏子（2007）. 外国人留学生のメンタルヘルスと危機介入 JAFSA 多文化間メンタルヘルス研究会の活動から 留学交流 , **19**, 6-9.
野内　類・井上孝代（2007）. 日本の学校への新しいコミュニティ心理学的アプローチ－米国の MEASURE を参考にしたスクールカウンセリングの役割　コミュニティ心理学研究 , **11**, 14-25.
田中ネリ・阿部　裕・井上孝代（2007）. S-HTP

でみる在日外国人児童のこころ － ボリビア人児童との比較　明治学院大学心理学部付属研究所紀要 , **5**, 15-31.

井上孝代（2008）. 全校参加型スクールカウンセリング － 米国の MEASURE 法による実践　児童心理 , **62**, 170-175.

井上孝代・伊藤武彦（2008）. PAC 分析の活用の意義と課題　明治学院大学文学部心理学科 心理学紀要 , **18**, 47-56.

井上孝代・小嶋明子・大嶽紀子他（2008）. 2007 年度心理学部心理学科新入生に対する「進路に関するアンケート」報告　明治学院大学文学部心理学科 心理学紀要 , **18**, 109-120.

飯田敏晴・伊藤武彦・井上孝代（2008）. 日本の大学生における HIV 感染者・AIDS 患者に対する偏見と知識：中国との比較　応用心理学研究 , **33**,142-143.

伊藤武彦・芳澤宏樹・井上孝代（2008）. PAC 分析を応用した HITY 法による個人別態度構造分析：父母間の子育て観を比較した HITY 法Ⅱ類を中心に　マクロ・カウンセリング研究 , **7**, 8-11.

田中ネリ・阿部　裕・井上孝代・岩木エリーザ（2008）. 2007 年，ペルー南西部におきた地震から 3 ヶ月後：震源地ピスコの子どもたち 明治学院大学心理学部付属研究所年報 , **1**, 117-128.

Inoue, T.（2009）. Community and multi-cultural psychology in Japan：Macro counseling approach. 応用心理学研究，**34**（2），119-125.

井上孝代（2009）. サイコエデュケーション（心理教育）に基づいた研修　マクロ・カウンセリング研究 , **8**, 68-72.

井上孝代・伊藤武彦（2009）. 高校のステークホルダーがかかえるコンフリクトの構造：レパートリーグリッド法と HITY 法による個人別態度構造分析－　明治学院大学文学部心理学科 心理学紀要 , **19**, 21-33.

北風菜穂子・伊藤武彦・井上孝代（2009）. レイプ神話受容と被害者：加害者の関係によるレイプの責任判断に関する研究　応用心理学研究 , **34**, 56-57.

内藤哲雄・伊藤武彦・井上孝代・伊藤哲司・大渕憲一（2009）. シンポジウム　異文化対立から相互理解へ：理解と和解のためのフロンティア　応用心理学研究 , **34**, 60-72.

飯田敏晴・いとうたけひこ・井上孝代（2010）. 日本の大学生における HIV 感染経路に関する知識と偏見の関連：性差に焦点を当てて　応用心理学研究 , **35**，81-89.

いとうたけひこ・小平朋江・穴澤海彦・井上孝代（2010）. タイダルモデルと浦河べてるの家：英国と北海道から生まれた精神障害者のためのコミュニティ的人間関係援助　和光大学現代人間学部紀要 , **3**, 197-207.

いとうたけひこ・水野修次郎・井上孝代（2010）. 紛争解決法としてのピア・メディエーション：関西 M 高校での取り組み　トランセンド研究 , **8**, 70-75.

いとうたけひこ・杉田明宏・井上孝代（2010）. コンフリクト転換を重視した平和教育とその評価：ガルトゥング平和理論を主軸にした教員免許更新講習　トランセンド研究 , **8**, 10-29.

岩木エリーザ・井上孝代（2010）. 在日ブラジル人コミュニティにおける子どもの発達課題と心理支援　こころと文化 , **9**, 29-35.

成田彩乃・井上孝代（2010）. 吃音に対する認知行動療法の現状と今後の展望　マクロ・カウンセリング研究 , **9**, 68-82.

野内　類・飯田敏晴・阿部　裕・井上孝代・平野裕子・野田文隆（2010）. 日本に暮らす外国人のメンタルヘルス上の Help-seeking 行動の研究（第 3 報）：ペルー人のうつと統合失調症の概念と対処行動　こころと文化 , **9**, 118-129.

鈴木ゆみ・いとうたけひこ・井上孝代（2010）. 日本におけるスクールカウンセラーのア

ドボカシーコンピテンスの応用可能性 － 日本語版アドボカシーコンピテンス自己評価検査（Advocacy Competencies Self-Assessment Survey）の紹介 － マクロ・カウンセリング研究 , **9**, 30-47.

津田友理香・いとうたけひこ・井上孝代（2010）. 日本におけるフィリピン系移民二世の文化的アイデンティティと心理学的課題　マクロ・カウンセリング研究 , **9**, 60-67.

渡邊愛祈・いとうたけひこ・井上孝代（2010）. 楽観主義内容分析法の説明スタイルに関する測定法 － CAVE 法（説明スタイルの逐語的内容分析）に着目して －マクロ・カウンセリング研究 , **9**, 48-59.

井上孝代・いとうたけひこ・飯田敏晴（2011）. 高等学校のステークホルダーの葛藤対処方略スタイルと適応：教職員のバーンアウト傾向及び学校特性の認知との関連　明治学院大学文学部心理学科 心理学紀要 , **21**, 1-12.

北風菜穂子・いとうたけひこ・井上孝代（2011）. 順序構造分析によるデートレイプ判断の性差の検討　応用心理学研究 , **37**, 40-41.

飯田敏晴・いとうたけひこ・井上孝代（2012）. HIV 自己イメージ尺度（HIVSIS）の信頼性と妥当性の検討：予防的介入プログラムの開発に役立つ尺度の作成　コミュニティ心理学研究 , **16**, 39-54.

井上孝代（2012）. 多文化カウンセリングとコミュニティのクロスロード：RESPECT-FUL カウンセリング／心理療法とマクロ・カウンセリングの考え方 こころと文化 , **11**, 18-26.

伊藤恵美・井上孝代（2012）. 社会福祉士実習教育の評価：学生の実習自己評価表のナラティブ分析を通して　静岡県立大学短期大学部研究紀要 25-w 号（2011 年度）, **4**, 1-22. http://oshika.u-shizuoka-ken.ac.jp/outline/research/000/index.html#p1（2012 年 2 月 17 日取得）

杉田明宏・いとうたけひこ・井上孝代（2012）. アニメ『みんなが Happy になる方法』を用いた紛争解決教育：大学入門講座『アニメで学ぶ対立の解決』におけるコンフリクト対処スタイルの変化　トランセンド研究 , **10**, 24-33.

＜学会発表＞

井上孝代・西山佐代子・田島啓子（1971）. 思考・認知・言語の三者関係の発達について：幼児の属性認知と関係の推理課題について　中国・四国・九州心理学会第 33 回大会

井上孝代・西山佐代子・田島啓子（1972）. 空間概念の発生について（2）：三次元対象における視点の移動の予測について（対象が方向軸をもたない場合）　中国・四国・九州心理学会第 34 回大会

西山佐代子・井上孝代・田島啓子（1972）. 空間概念の発達について（1）：行動的空間における方向軸の発生について　中国・四国・九州心理学会第 34 回大会

田島啓子・西山佐代子・井上孝代（1972）. 空間概念の発生について（3）：三次元対象における視点の移動の予測について（対象が方向軸を持つ場合）　中国・四国・九州心理学会第 34 回大会

井上孝代・西山佐代子・田島啓子（1973）. 空間概念の発達について（4）　日本教育心理学会第 15 回総会

宮原和子・宮原英種・井上孝代（1974）. 二語文発話形成期における言語習得過程の文（1）　日本心理学会第 43 回大会

井上孝代他（1984）. 滝野川保健所における精神障害者社会復帰事業（デイケア）について　東京都衛生局学会（東京）

井上孝代他（1985）. 滝野川保健所デイケア家族会について　東京都衛生局学会（東京）

井上孝代・宮原和子・宮原英種（1985）. J.McVicker ハント博士の行動の軌跡 日本

保育学会第 38 回大会

井上孝代（1986）. Down 症乳幼児における知的発達に関する縦断的研究（A longitudinal study of intellectual development in a Down's syndrome infant） 国際行動発達学会（東京）

竹内里絵・井上孝代・宮原和子（1986）. 応答的保育に関する研究：言語プログラム（3）：言語プログラムにおける階層的順序性 日本保育学会第 39 回大会研究論文集 ,58-59.

井上孝代（1987）. 順序尺度によるダウン症児の知的発達過程の解析と教育（1）：基礎報告 日本保育学会大会第 40 回研究論文集

井上孝代・宮原和子（1987）. Uzgiris-Hunt 尺度によるダウン症児の「ものの永続性」と「音声模倣」の発達について：健常児との比較 日本教育心理学会第 29 回総会発表論文集

井上孝代（1990）. 分裂病者を対象とするデイケアのプログラムの意義について　日本集団精神療法学会大会

井上孝代（1990）. 一分間スピーチにおける自己認知変容過程について　日本集団精神療法学会大会

井上孝代（1990）. 地域デイケアの一泊所外活動の経験をふまえて　第 10 回日本社会精神医学会大会抄録集

Inoue, T.（1990）. *How foreign residents cope with living in a monocultural community? : Counseling in Tokyo.* 22nd International Congress of Applied Psychology（Kyoto）

宮原和子・宮原英種・中村尋子・飯田恵津子・鹹味千寿子・大里美保子・井上孝代・北野哲也・河野操・竹内里絵・渡辺勝義（1990）. 応答的保育の研究：低年齢児の言語教育プログラム　日本保育学会第 43 回大会研究論文集

Inoue, T.（1992）. *Adjustment process of foreign residents living in Japan: The case of the Chinese.* The XIth International Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology（Belgium）

井上孝代（1993）. 地域在住外国人への適応援助：中国人の事例から　第 13 回日本社会精神医学会大会抄録集

井上孝代・鈴木康明（1993）. 留学生援助におけるカウンセリング活動の位置づけについて 異文化間教育学会第 14 回大会発表抄録

Ito, T., & Inoue, T.（1993）. *Prevention of violent ethnic conflicts in Japan.* Paper presented at the Third International Symposium on the Contribution of Psychology to Peace, Aug 15-19 at Randolph Macon College, USA.

鈴木康明・井上孝代（1993）. 考え方の違いに悩みアイデンティティが動揺した留学生：異文化間カウンセリングの研究（1）日本学生相談学会第 11 回大会論文集

鈴木康明・井上孝代（1993）. 言葉の問題に悩み孤独や不安を訴える留学生：異文化間カウンセリングの研究（2）　日本カウンセリング学会第 26 回大会発表論文集

井上孝代・伊藤武彦（1994）. 在日一年目の留学生の異文化適応：予備教育期間中の異文化適応態度と健康の質問紙調査　日本健康心理学会第 7 回大会発表論文集

井上孝代・鈴木康明・伊藤武彦（1994）. 在日 1 年目の留学生の異文化適応と健康：質問紙調査と異文化間カウンセリングの事例から 異文化間教育学会第 15 回大会発表抄録

鈴木康明・井上孝代（1994）. 非言語的アプローチとしてのサンド・プレイ導入：異文化間カウンセリングの研究（4）　日本学生相談学会第 12 回大会論文集

井上孝代（1995）. 異文化間カウンセリングにおける「技法」の問題と可能性　日本カウンセリング学会第 28 回大会発表論文集

井上孝代・伊藤武彦（1995）. 留学生のアカルチュレーション（異文化適応）：在日 2 年目以降の留学生に対する質問紙調査から 異文化間教育学会第 16 回大会発表抄録

Inoue, T., & Ito, T.（1995）. *Acculturation process*

and mental health of international students in Japan. International Conference on Conflict and Development in Adolescence, Ghent, Belgium

鈴木康明・井上孝代（1995）. 異文化間カウンセリングにおける「技法」の問題：異文化間カウンセリングの研究（5）　日本学生相談学会第 13 回大会論文集

土屋順一・井上孝代・谷和明（1995）. 留学生のかかえる学習困難と日本語教育：国費留学部留学生の中途退学者の事例から．　異文化間教育学会第 16 回大会発表抄録 , 118-119.

井上孝代・伊藤武彦（1996）. 来日 1 年目の留学生の予備教育機関における学校不適応と授業イメージ　異文化間教育学会第 17 回大会発表抄録

井上孝代・田中共子・鈴木康明（1996）. 留学生と日本人学生に対する心理教育的グループ・セッションの試み　日本カウンセリング学会第 29 回大会発表論文集

鈴木康明・井上孝代（1996）. 外国人留学生に対する非言語的アプローチとしての芸術療法　多文化間精神医学会第 3 回大会発表抄録

鈴木康明・井上孝代（1996）. 外国人留学生に対する治療的援助と予防・開発的援助 － 異文化間カウンセリングの研究（6）　日本学生相談学会第 14 回大会発表論文集

鈴木康明・井上孝代（1996）. 教員のための「異文化理解教育」研修　異文化間教育学会第 17 回大会発表抄録

井上孝代（1997）. 留学生カウンセリングにおけるＰＡＣ分析　日本学生相談学会第 15 回大会発表論文集

井上孝代（1997）. 留学生教育関係者の心理教育　異文化間教育学会第 18 回大会発表論文集

井上孝代（1998）.（話題提供）留学生教育関係者のための心理教育の実践から 日本カウンセリング学会第 31 回大会 自主シンポジウム「心理教育的グループの実践について」（金沢吉展企画）　日本カウンセリング学会第 31 回大会発表論文集

井上孝代・伊藤武彦（1998）. 留学生相談の実態調査　日本学生相談学会第 16 回大会発表論文集

井上孝代・大橋敏子（1998）.（企画・司会）ラウンドテーブル：異文化間カウンセリングの実際と多様性（話題提供：手塚千鶴子・蔡 小瑛･加賀美常美代, 指定討論:星野 命）　異文化間教育学会第 19 回大会発表論文集

伊藤武彦・井上孝代（1998）. 留学生の中退の全国調査　異文化間教育学会第 19 回大会発表論文集

井上孝代（2002）. マクロ・カウンセリングの理論と実際　第 5 回日本コミュニティ心理学会（立教大学）シンポジウム『コミュニティとカウンセリング：地域臨床を進める』

月野木竜也・伊藤武彦・井上孝代（2002）. ある地方自治体職員の男女平等に対する意識　コミュニティ心理学会第 4 回大会発表論文集

チャイァディロ和子・井上孝代（2003）.「バンコックこころの相談」の実態　第 10 回多文化間精神医学会

井上孝代（2003）. 異文化間カウンセリングの今日的課題：マクロ・カウンセリングの考え方から　異文化間教育学会第 25 回大会 シンポジウム『異文化間カウンセリングの今日的課題』

井上孝代（2004）. 教育臨床における発達的・コミュニティ的・多文化的アプローチ：マクロ・カウンセリングの視点から見た学校臨床　日本カウンセリング学会第 37 回大会論文集

井上孝代（2004）. シンポジウム「異文化間理解の可能性と限界」,（話題提供）多文化間精神医学会第 11 回大会

益子洋人・井上孝代（2004）. 青年期の対人関係における過剰適応傾向と性格特性との関連　日本カウンセリング学会第 37 回大会論文集

郷百合野・畠山朝子・井上孝代（2005）. 学生相談におけるカウンセラー－クライエントによる面接評価の試み：インフォームドコンセントの観点から　日本心理臨床学会第24回大会発表論文集

林　香里・遠藤　香・野田文隆・阿部　裕・井上孝代・村上尚美・本田眞喜子（2005）. 在日外国人のメンタルヘルス上のhelp seeking 行動の研究　異文化間教育学会第26回大会

本田眞喜子・鈴木　満・井上孝代（2005）. 青年期海外勤務者の渡航3ヶ月後の精神的健康度とQOLに関する研究　異文化間教育学会第26回大会

井上孝代（2005）. シンポジウム：外国人へのケア：臨床心理学の立場から　日本外来精神医療学会第5回総会

井上孝代（2005）. 自主シンポジウム：学校へのコミュニティ心理学的介入とその問題点　日本カウンセリング学会第38回大会論文集

井上孝代・榊原佐和子（2005）. 臨床心理学における「エンパワーメント」概念の検討：マクロ・カウンセリングでの位置づけ 日本コミュニティ心理学会第8回大会発表論文集

大竹由美子・井上孝代（2005）. ひきこもりネット相談によせられたメールの内容分析：ひきこもり期間による心理的状態の違いと支援の検討　日本コミュニティ心理学会第8回大会発表論文集

榊原佐和子・野内　類・飯田敏晴・井上孝代（2005）. 在日ラテンアメリカ人の不登校・いじめ・非行問題に対する援助要請：ポルトガル語を母語とする労働者家族に対する面接による実態調査から 日本カウンセリング学会第38回大会論文集

榊原佐和子・野内　類・飯田敏晴・井上孝代（2005）. 在日ラテンアメリカ人の日本と母国でのメンタルヘルスサービスに対する援助要請に関する研究　日本コミュニティ心理学会第8回大会発表論文集

横澤直文・井上孝代（2005）. 10代を対象とした電子メールによるピアサポートの試験的実施　日本思春期学会第24回大会論文集

飯田敏晴・井上孝代（2006）. 中学生の保護者における専門機関への来談に対する態度尺度作成の試み　日本教育心理学会第48回大会

飯田敏晴・井上孝代（2006）. HIV母子感染時の治療過程で，不登校，怠薬へと至った事例：女子中学生に対するコミュニティ・アプローチの検討　第13回多文化間精神医学会学術総会

飯田敏晴・榊原佐和子・野内　類・井上孝代（2006）. 在日ペルー人におけるメンタルヘルス上の問題に対する援助要請と抑制要因：母国ペルー人と在日ペルー人の面接調査の比較　日本コミュニティ心理学会第9回大会

飯田敏晴・榊原佐和子・野内　類・井上孝代（2006）. 在日ラテンアメリカ人の不登校・いじめ・非行問題に対する援助要請に関する研究：在日ラテンアメリカ人と母国調査との比較　日本カウンセリング学会第39回大会

野田文隆・阿部　裕・井上孝代・辻　恵介・大西　守・植本雅治・菅原道哉・平野［小原］裕子・川口貞観・鵜川　晃・瀧尻明子・日下尚子・林　香里・木田麻由子・飯田敏晴・野内　類・道家木綿子・遠藤　香・吉田尚史・大塚公一郎・近藤　州・手塚千鶴子・倉林るみい・高橋智美・榊原佐和子・上原美穂（2006）. 日本に暮らす外国人のメンタルヘルス上のHelp-seeking行動の研究3）調査紙における多文化性の問題について 第13回多文化間精神医学会学術総会

榊原佐和子・野内　類・飯田敏晴・井上孝代・鈴木　満（2006）. 青年海外法人勤務者の精神保健と環境因（第一報）　第13回多文化

間精神医学会学術総会

飯田敏晴・井上孝代（2007）．うつ病者の職場復帰支援（1）：精神科クリニックにおける＜リワーク支援プログラムの試み＞日本カウンセリング学会第40回大会

伊藤武彦（企画者）・内藤哲雄・井上孝代・岸太一（2007）．（ワークショップ）PAC分析の過去・現在・未来：個を科学する方法のさらなる発展にむけて　日本応用心理学会第74回大会発表論文集，6.

Kitakaze, N., Numa, N., Matsugami, N., Inoue, T., Ito, T.（2007）. *Rape myth acceptance in Japanese university students.* Japanese Society of Transcultural Psychiatry（JSTP）, World Psychiatric Association, Transcultural Psychiatry Section（WPATPS）, World Association of cultural Psychiatry（WACP）, Joint Meeting in Kamakura, 27-29.

小平朋江・伊藤武彦・松上伸丈・井上孝代（2007）．統合失調症の人についてのビデオ視聴による偏見低減の効果：AMD尺度とSDSJ社会的距離尺度による患者談話条件と医師説明条件との比較　日本応用心理学会第74回大会発表論文集，59.

中村　光・鈴木　満・倉林るみい・神山昭男・齋藤高雅・井上孝代・野内　類・飯田敏晴（2007）．海外在留邦人精神科救急事例の受療経路（第1報）　第14回多文化間精神医学会学術総会

野田文隆・阿部　裕・井上孝代・辻　恵介・平野［小原］裕子・川口貞観・鵜川　晃・木田麻由子・飯田敏晴・野内　類・道家木綿子・遠藤　香・吉田尚史・近藤　州・手塚千鶴子・倉林るみい・高橋智美・田中英三郎・安田章子・野口正行・松岡秀明（2007）．日本に暮らす外国人のメンタルヘルス上のHelp-seeking行動の研究（4）　カンボジア人，ベトナム人のHelp-seeking行動 第14回多文化間精神医学会学術総会

野内　類・飯田敏晴・阿部　裕・辻　恵介・平野［小原］裕子・川口貞親・鵜川晃・木田麻由子・ 道家木綿子・遠藤　香・吉田尚史・近藤　州・手塚千鶴子・倉林るみい・高橋智美・田中英三郎・安田章子・野口正行・松岡秀明・井上孝代・野田文隆（2007）．在日外国人のメンタルヘルス上のHelp-seeking行動の類似点と相違点　カンボジア人・ペルー人・ブラジル人のHelp-seeking行動 第14回多文化間精神医学会学術総会

高橋智美・野内　類・阿部　裕・井上孝代・辻恵介・平野［小原］裕子・川口貞観・鵜川晃・木田麻由子・飯田敏晴・道家木綿子・遠藤香・吉田尚史・近藤　州・手塚千鶴子・倉林るみい・田中英三郎・安田章子・野口正行・松岡秀明・野田文隆（2007）．カンボジアのメンタルヘルス研究：シュムリアップ市での聞き取り調査を通して　第14回多文化間精神医学会学術総会

田中ネリ・Cadima Martha・阿部　裕・井上孝代・岩木エリーザ（2007）．S-HTPからみる南米ボリビアの子どものこころ　第14回多文化間精神医学会学術総会

Iida, T., Ito, T., & Inoue, T.（2008）. *HIV-related knowledge and attitude toward people living with HIV/AIDS among university students in Japan.* 13th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting Program & Abstracts

飯田敏晴・山本茉樹・伊藤武彦・井上孝代（2008）．女子大生におけるHIV感染症に対するイメージと偏見の構造　日本コミュニティ心理学会第11回大会．

Ito, T., Kodaira, T., Matsugami, S., & Inoue, T.（2008）. *Schizophrenia prejudice prevention education by video watching.* 2nd International Conference on Community Psychology（ICCP）

伊藤武彦・芳澤宏樹・井上孝代（2008）．PAC

分析の拡張としてのHITY法による個人別態度構造分析：父母間の子育て観を比較したHITY法Ⅱ類を中心に ＰＡＣ分析学会第2回大会発表論文集

北風菜穂子・伊藤武彦・井上孝代（2008）. 予防教育的アプローチによる大学生のレイプ神話受容態度の変容 日本コミュニティ心理学会第11回大会発表論文集

Kitakaze, N., Ito, T., & Inoue, T. (2008). *Social perception of rape in Japan: Comparing Spanish and Japanese university students.* 13th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting Program & Abstracts

Kodaira, T., Ito, T., Matsugami, S., & Inoue, T. (2008). *Can we reduce the prejudice among the people towards schizophrenia by a short-time video education?* 13th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting Program & Abstracts

野田文隆・阿部 裕・井上孝代・平野［小原］祐子・川口貞親・鵜川 晃・木田麻由子・飯田敏晴・野内 類・近藤 州・江川 緑・倉林るみい・高橋智美・田中英三郎・安田章子・野口正行・松岡秀明・河野 真・手塚千鶴子（2008）. 日本に暮らす外国人のメンタルヘルス上のHelp-seeking行動の研究（5） マイノリティの「うつ」に対する捉え方と対処行動 第16回多文化間精神医学会学術総会

野内 類・飯田敏晴・阿部 裕・平野［小原］祐子・川口貞親・鵜川 晃・木田麻由子・吉田尚史・近藤 州・手塚千鶴子・倉林るみい・高橋智美・田中英三郎・安田章子・野口正行・松岡秀明・河野 真・井上孝代・野田文隆（2008）. 日本に暮らすペルー人の抑うつに対するHelp-seeking行動の類似点と相違点 第15回多文化間精神医学会学術総会

小川原純子・野内 類・井上孝代（2008）. シンガポールにおける在留邦人メンタルヘルスの現状：6年間の外来診療を通して 第16回多文化間精神医学会学術総会

鵜川 晃・手塚千鶴子・倉林るみい・阿部 裕・井上孝代・平野［小原］裕子・川口貞親・村上裕子・木田麻由子・飯田敏晴・野内 類・吉田尚史・近藤 州・高橋智美・田中英三郎・安田章子・野口正行・江川 緑・松岡秀明・河野 真・野田文隆（2008）. 日本に暮らす外国人のメンタルヘルス上のHelp-seeking行動の研究（5）ヴェトナム人の「うつ病」の概念と支援探索行動の特徴について 第16回多文化間精神医学会学術総会

八城真里・井上孝代・伊藤武彦（2008）. 児童養護施設職員の職務継続意思に及ぼす影響要因に関する研究：物理的・環境的要因及び心理的要因（バーンアウト・二次的外傷性ストレス・共感満足に注目して） 日本コミュニティ心理学会第11回大会発表論文集

八城真理・伊藤武彦・井上孝代（2008）. 児童養護施設職員のニーズと職務継続意思に関する研究：Text Mining Studio2.2.1によるテキストマイニング 日本応用心理学会第95回大会発表論文集

Yashiro, M., Ito, T., & Inoue, T. (2008). *A national survey of mental health of children's home workers in Japan: Focusing on burnout, secondary traumatic stress, and compassion satisfaction as factors affecting intention to continue to work.* 13th Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting Program & Abstracts

芳澤宏樹・伊藤武彦・井上孝代（2008）. 共働きの父親の育児参加と育児ストレス：就学前の子どもを持つ父親を対象とした質的研究 日本応用心理学会第95回大会発表論文集

Yoshizawa, H., Ito, T., & Inoue, T. (2008). *Roles and meanings of childrearing for a couple: A basis for family psychotherapy.* 13th

Pacific Rim College of Psychiatrists Scientific Meeting
遠藤嵩仁・井上孝代（2009）. 中学生の家庭ストレスと学校ストレスが学校適応感に及ぼす影響について　日本応用心理学会第76回大会
飯田敏晴・伊藤武彦・井上孝代（2009）. 想像されたヒト免疫不全ウィルス感染後の自己イメージ尺度の作成　日本応用心理学会大会第76回大会
井上孝代（2009）. 健康を支援する応用心理学：社会に求められる「心理支援力」のある人材育成を目指して　日本応用心理学会第76回大会
北風菜穂子・伊藤武彦・井上孝代（2009）. デートレイプの判断基準における性差の検討－強要エピソードに対する反応パターンに注目して－　日本応用心理学会第76回大会発表論文集
中野真希・伊藤武彦・井上孝代（2009）.「慰安婦」問題とレイプ神話との関連－男女の比較に焦点を当てて－　日本応用心理学会第76回大会発表論文集
野田文隆・阿部　裕・井上孝代・平野［小原］裕子・川口貞観・鵜川　晃・飯田敏晴・野内類・吉田尚史・近藤　州・手塚千鶴子・倉林るみい・高橋智美・田中英三郎・安田章子・野口正行・松岡秀明・河野　真（2009）. 日本に暮らす外国人のメンタルヘルス上のHelp-seeking行動の研究（6）マイノリティの精神保健サービス利用の抵抗について　第17回多文化間精神医学会学術総会
大橋敏子・大西　守・井上孝代（2009）. 外国人留学生のメンタルヘルスのための危機介入ガイドライン策定の試み　第17回多文化間精神医学会学術総会
山本茉樹・飯田敏晴・井上孝代（2009）. 大学生の心の専門家への援助要請意図規定要因の検討　日本応用心理学会第76回大会
飯田敏晴・いとうたけひこ・井上孝代（2010）. 大学生におけるHIV感染想定時の自己イメージ尺度作成の試み　第24回日本エイズ学会学術集会・総会
Inoue, T., & Ito, T.（2010）. *Personal construct analysis of a vice-principal on conflicts in a high school as workplace through High Tea Method by using repertoire grid technique.* Paper presented at the 27th International Congress of Applied Psychology
北風菜穂子・いとうたけひこ・井上孝代（2010）. デートレイプの判断における状況要因と態度要因の影響 －強要の方略とレイプ神話受容態度による検討 －　日本応用心理学会第77回大会発表論文集
北風菜穂子・いとうたけひこ・井上孝代・大野順（2010）. デートレイプ判断基準の順序構造分析－性差に注目して－　日本教育心理学会第52回総会発表論文集
成田綾乃・井上孝代（2010）. 公的自意識が他者から見られることに対する不安に及ぼす影響：他者からの否定的評価への不安とスピーチに関する否定的見積もりの観点から　日本応用心理学会大会第77回大会
大野　順・いとうたけひこ・井上孝代（2010）. 大学生の学生相談ニーズの順序構造分析　日本教育心理学会第52回総会発表論文集
鈴木ゆみ・井上孝代・いとうたけひこ・赤嶺直子（2010）. 日本における多文化問題を扱う能力Multicultural Competencies（MC）臨床心理士養成課程においてどのように位置づけられているか－アメリカ・ドイツとの比較を通して－　異文化間教育学会第31回大会発表論文集
渡邊愛祈・井上孝代（2010）. 大学生における感謝傾向とゆるし傾向が主観的幸福感に及ぼす影響　日本応用心理学会第77回大会
井上孝代（2011）. 自主企画ワークショップ（話題提供）　コンフリクト・リゾリューション教育：学校での紛争解決教育（CRE）の

可能性　日本応用心理学会第 78 回大会論文集
井上孝代（2011）. シンポジウム「応用心理学の発展と社会への貢献」（話題提供）　基礎心理学と応用心理学の協働による心理学教育の試み　日本心理学会第 75 回大会
井上孝代・いとうたけひこ・飯田敏晴（2011）. 高等学校教職員の葛藤対処方略スタイルと適応 － 教職員のバーンアウト傾向及び学校特性の認知との関連－　日本応用心理学会第 78 回大会発表論文集
いとうたけひこ・山崎　創・渡邊愛祈・井上孝代（2011）. 乳癌再建手術体験者の語りにおける自己イメージと楽観主義　日本応用心理学会第 78 回大会発表論文集
北島宏倫・井上孝代・中井あづみ（2011）. 青年期における自己愛の誇大性が友人関係のストレスに対する認知的評価を介して精神的健康に与える影響　日本行動療法学会第 37 回大会
北風菜穂子・いとうたけひこ・井上孝代（2011）. 被害者の手記を読むことによるデートレイプ被害者のイメージの変化 － PAC 分析によるナラティブ教材の効果の検討－　心理臨床学会第 30 回大会発表論文集
北風菜穂子・いとうたけひこ・井上孝代（2011）. 被害者の手記を読むことによるデートレイプ被害者像の変化：ＰＡＣ分析によるナラティブ教材の効果の検討　PAC 分析学会第 5 回大会プログラム・発表論文集
長坂　晟・井上孝代（2011）. 性同一性障害者の時間的展望　日本応用心理学会第 78 回大会
岡本　悠・井上孝代（2011）. 対人ストレスコーピングが精神的健康に与える影響：主観的ウェルビーイングの観点から　日本応用心理学会第 78 回大会
太田一美・村山憲男・井上孝代（2011）. 認知症の鑑別診断を目的とした外国人への心理査定の有用性と限界日本心理臨床学会第 30 回秋季大会プログラム
津田友理香・いとうたけひこ・井上孝代（2011）. 在日フィリピン系青年の文化的アイデンティティに関する心理社会的課題と展望　異文化間教育学会第 32 回大会発表論文集
渡邊愛祈・いとうたけひこ・井上孝代（2011）. 乳房再建手術体験者の楽観主義的説明スタイル：CAVE 法（説明スタイルの逐語的内容分析）によるナラティブの分析　日本教育心理学会第 53 回総会発表論文集
渡邊愛祈・いとうたけひこ・山崎　創・井上孝代（2011）. 乳房再建手術体験者の体験記の分析－テキストマイニングを用いて－　心理臨床学会第 30 回大会発表論文集
山本茉樹・今井公文・飯田敏晴・鈴木　満・井上孝代（2011）. 邦人海外渡航者の渡航前・渡航中・渡航後のメンタルヘルスサービスの需要に関する研究－長期滞在中に抑うつ状態に陥り帰国に至った民間駐在員事例の縦断的検討から－　多文化間精神医学会第 18 回学術総会発表論文集
山崎　創・いとうたけひこ・井上孝代・（2011）. 大学生の源家族からの自己分化と友人関係分類の関連について　日本応用心理学会第 78 回大会発表論文集
井上孝代（2012）. 和解転換カウンセリングへの道－トランセンド法でみんな Happy －産業カウンセリング第 42 回全国研究大会第 8 分科会（ADR 分科会）
井上孝代（2012）. シンポジウム「心理教育とマイクロカウンセリングの役割」話題提供“心理支援力”育成とマイクロカウンセリング　日本心理学会第 76 回大会
伊藤恵美・井上孝代（2012）. 自死遺族者へのカウンセリング・プロセスおよび意味再構成理論からの検討　日本カウンセリング学会第 45 回大会論文集
北風菜穂子・いとうたけひこ・井上孝代（2012）. レイプ支持態度とレイプに関する教育的介入がデートレイプの判断に及ぼす影響 －

模擬裁判実験における有罪・無罪判断および量刑判断の男女別検討－　日本心理臨床学会第31回秋季大会プログラム
岡本　悠・いとうたけひこ・井上孝代（2012）. 大学生の友人関係における対人葛藤の終結までのプロセス － 複線径路・等至性モデル（TEM）に基づいて－　日本応用心理学会第79回大会発表論文集
杉田明宏・いとうたけひこ・井上孝代（2012）. 新入生講座におけるアニメ『みんながHappyになる方法』による紛争解決教育の効果 － コンフリクト対処スタイルの変化－　日本応用心理学会第79回大会発表論文集
田村雄志・田村紀子・赤嶺直子・野村茉未・山本映絵・大友　健・津田友理香・榎　郁美・小玉紗織・田中ネリ・井上孝代・阿部裕（2012）. 在日ラテンアメリカ人コミュニティのこころの支援：埼玉県飯能市における実践活動の考察　第19回多文化間精神医学会学術総会
渡邊愛祈・いとうたけひこ・井上孝代（2012）. 日本語版感謝傾向尺度（J-GRAT）作成の試み　心理臨床学会第31回秋季大会プログラム
山本茉樹・今井公文・飯田敏晴・鈴木　満・井上孝代（2012）. 海外駐在員に向けたメンタルヘルスサービスの現状と課題に関する研究　第19回多文化間精神医学会学術総会
杉田明宏・いとうたけひこ・井上孝代（2013）. 平和教育アニメ視聴による現職教員のコンフリクト対処スタイルの変化に関する研究：平和教育アニメーション『みんながHappyになる方法』の効果と意義　日本発達心理学会第24回大会発表論文集

＜報告書＞

井上孝代（1995）. 質問紙調査の結果　『国費学部留学生に関する調査報告』（第3章を分担執筆）東京外国語大学留学生日本語教育センター
井上孝代（編）（1996）.『異文化間カウンセリングにおける非言語的技法に関する実験臨床心理学的研究』　平成6・7年度科学研究費補助金（一般研究Ｃ：課題番号06610060）研究成果報告書
井上孝代（編）（1998）.『留学生の中途退学に関する異文化間臨床心理学的研究』　平成8・9年度科学研究費補助金（基盤研究Ｃ：課題番号08610111）研究成果報告書
井上孝代（2001）.「世界青年の船」事業における異文化接触経験への援助に関する実験臨床心理学的研究（課題番号　11610142）平成11･12年度文部省科学研究費補助金（基盤研究（ｃ）（２）研究成果報告書

＜学会活動＞

日本心理学会　会員
多文化間精神医学会　理事・会員
日本教育心理学会　会員
異文化間教育学会　会員
日本心理臨床学会　会員
多文化関係学会　会員
日本応用心理学会　理事・会員
日本マイクロカウンセリング学会　会員
日本コミュニティ心理学会　理事・会員
PAC分析学会　理事・会員
日本カウンセリング学会　会員　など

＜社会的活動＞

横浜家庭裁判所　調停委員・参与
横浜市精神保健福祉審議会　審議委員
北区東南アジア保育支援委員会　会長
NPO法人AMIS　顧問
NPO法人　ハウスキーピング協会　理事
NPO法人JAMSNET　理事　など